

集団疎開

《集団疎開》

練馬区の子どもたち、約二万一千人は、群馬県のお寺や旅館に疎開しました。はじめは、三年生以上でしたが、昭和二十年三月の大空しゅうの後、一年生や二年生まで、疎開に参加しました。小さい子どもたちは、お母さんを恋しがって夜になると泣き出す子もいました。食料不足のため、いつもおなかをすかせていました。おかゆの中にご飯つぶがわずかにういているだけの主食とカボチャ、豆だけの夕食といったわびしい食事の日がほとんどでした。

昭和二十年になると、空しゅうがはげしくなり、アメリカの飛行機が昼も夜もやってきました。三月十日には、東京大空しゅうがあり、たくさんの方がやけたり、人が死んだりしました。四月十三日には田柄にも空しゅうがありました。

八月に入って広島、長崎に原子ばくだんが落とされ、昭和二十年八月十五日に、ようやく戦争がおわりました。